



ほりかわ ひでき
堀川 秀樹 [さばえ結の会]



インバウンドや国内旅行に対する 体験型観光の在り方について

問 丹南地区のものづくり文化を生かした、体験型観光の需要を取り入れた取組について、市や広域での考えは。

答 現在、鯖江市を拠点とした体験型観光の代表的な取組として「RENEW」があり、このような体験型観光の通年化ができないかと考えている。広域的な取組としては、丹南広域観光協議会が、昨年度に丹南地域の魅力ある地域資源を観光素材集としてまとめている。また、開始を目指している丹南広域タクシーの定額運行や、10月に大阪で開催されたツーリズムEXPOジャパ



体験型観光需要の
取り入れを

ンへの共同出展、大垣市でのPRなどを鯖江市の呼びかけにより行っている。

丹南5市町連携による広域周遊観光を強化することにより、誘客や消費額の拡大が期待されることから、今後も連携を強化し、観光誘客に取り組んでいく。

クラウンロード開通に伴う 観光誘客について

問 クラウンロード開通に伴う、中京方面からの観光誘客についての考えは。

答 今後は、クラウンロードを利用した来訪者の増加が大いに期待できると考えている。クラウンロードから河和田地区を通して市内外の各方面に訪れていただくため、池田町内の県道と町道の道路標識に鯖江市の表記を追記した。また、さばえつつじまつりや越前漆器まつりなどのイベントについても、中京方面に向けてPRしていく。



にしの ゆか
西野 有香 [SABA LABO]



鯖江の保育の現状について

問 保育所等の入所結果通知が遅いとの声があるが、ライフプランにも関わるため、入園に関わる全体的な日程をもっと前倒しすることを目指してほしい。また、入園準備物の規格が各園で異なり、入園説明会で配付される資料を待たなければ詳細が分からない。入園準備物の統一や、入園のしおりと同じく、各園の準備物等の情報を公開・周知することについての考えは。

答 要望を受け、今年度は入園面接時期を約10日早めたが、職員配置等の入所調整には一定の時間がかかることは理解いただきたい。今後は、さらに入所決定事務や、

公立園の入園準備物の基準を見直すとともに、市のホームページに分かりやすく掲載・周知する。

問 「保育の必要性を確認する書類」について、父母以外に市内居住の65歳未満の祖母に証明の提出が求められているが、仕事や社会活動をされている方も多い。また、育児は母親や祖母がするものというようなジェンダーバイアス(性別に対する思い込みや偏見)のある文言は、ジェンダー平等を掲げる鯖江市の文書の中にあってはならないのではないかと。保育の必要性を確認する対象者は、父母のみとしている自治体も多数あるが、市の考えは。

答 ジェンダーバイアスの観点や申請者の利便性、入所事務の円滑化等も踏まえ、65歳未満の祖父母の証明の提出を求めないよう検討していく。



入園事務の効率化を



さかい ゆきこ
酒井 友季子 [ふくいの党・鯖江]



福祉タクシーチケットの 今後の発行について

問 外出困難な在宅の障がい者に対し、タクシー料金の一部を助成しているが、以前は1度の乗車で複数枚のチケットが利用できたところ、平成22年度の変更により、1枚までの利用となった。改正前のように複数枚の利用を望む声が多くあるが、今後、利用者がより使いやすい方法を模索し、変更する必要があるのではないかと。

答 改正は利用者の声を反映したものであり、その後もアンケートを行うなどの意見収集等を行っているが、多様



福祉タクシー
チケットの
利用見直しを

化するニーズに対応した見直しが必要と考える。障がい者の社会参加を促し、生活の質向上につながる制度となるよう検討していく。

屋内遊戯施設 (全天候型子どもの遊び場)について

問 屋内遊戯施設のアンケートについて、今まで市が収集した意見は、ほとんどが大人から集めたものである。大人が過ごしやすい場所ではなく、子どもたちが遊びたくなる場所をつくってほしい。今後、当事者の子どもたちからも、ヒアリングする場を設ける考えはあるのか。

答 子どもの意見を直接聞くことは、こどもまんなかのまちづくりを進めている鯖江市にとって大変重要なことである。今後計画を進めていく中で、事例等を研究しながら、実施する方向で検討していきたい。